

近江神宮

近江神宮は、大津の歴史における重要人物である天智天皇（626–672）をご祭神とし、1940年に創建されました。天智天皇は、667年に国の首都を飛鳥（今日の奈良県）から大津に移されました。近江神宮があるのは、天智天皇の宮殿があった場所の近くです。天智天皇は、大きな拝殿の後ろにある本殿に祀られています。これらの社殿の正面には、鮮やかな朱色の門（楼門）がそびえ立っており、周囲の森に密集して生える木々の緑とコントラストをなしています。

天智天皇は、日本に時間を計るシステムを打ち立てて、中国から伝えられた技術を基に日本初の漏刻水時計を作られたことで有名です。近江神宮の時計博物館には、日本や世界各地から集められた数多くの時計が収蔵されています。外には、実寸大の機能する漏刻のレプリカが展示されており、その近くには龍をかたどった「火時計」が立っています。毎年6月10日には、「時の記念日」を祝うお祭りが開催されます。

また天智天皇は、和歌とも関連が深い存在です。天智天皇は、有名な百人一首の第1首を詠まれました。百人一首とは、中世の時代の歌人が詠んだ100首の和歌を集めたもので、作者には王朝の有力人物が多く含まれます。百人一首の和歌は、かるたという人気のカードゲームにも使われます。上の句が朗読されると、下の句が書かれたカードを競って探すというゲームです。

極めて競技性の高いかるたの世界において、近江神宮は重要な大会の開催場所となっています。全国高等学校かるた選手権大会の年間決勝戦、そして日本のかるたナンバーワンを決める名人位とクイーン位の決勝戦が行われるのです。大会は、現代様式で建てられたホールで行われます。競技かるたがテーマの『ちはやふる』というアニメ、漫画、そして映画のシリーズのファンなら、作品に近江神宮が登場することから、近江神宮に見覚えがあるかもしれません。伝統的衣装をレンタルして近江神宮の周辺で着用することもでき、また近江神宮ではかるたセットやかるたの形をしたせんべいも売られています。